MAINICHI
毎日新聞
10月29日（火）
2019年（令和元年）
発行所：大阪市北区梅田３丁目４番５号
〒530-8251　電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社

乳がん 日ごろから自己検診を

橋本 元SKE矢方さん 体験語る

啓発イベント

乳がんの早期発見・治療を呼びかける第8回「乳がんいのちプロジェクト・市民公開講座」が26日、橋本市保健福祉センター（同市東家1）であった。思春期・若年成人がんをテーマに元SKE48メンバーでタレントの矢方美紀さん(27)が乳がん体験を語り、約250人が聴き入った。

講座ではまず、紀和病院・紀和ブレスト（乳腺）センター（同市岸上）の梅村定司医師が、15～39歳の世代の若年性乳がんについて解説。「マンモグラフィーでは見落とされることがあり、自己検診が大切になる。日ごろから自分で触って乳房の変化を知り、しこりなどを自覚したらすぐに医療機関を訪ねてほしい」と話した。

続いて講演した矢方さんは昨年、自分で左胸の上にしこりを見つけ、病院で乳がんと診断された。リンパ節への転移も分かり、再発を防ぐために左乳房の全摘出手術を受けた。入院を前向きに受け止め、「退院すれば仕事に復帰する。仕事ができるなら治療を乗り越えようと考えた」と振り返った。昨年初めて乳がん啓発イベントにも参加し、「自分が病気になったからこそ、しっかりと伝えなければと思う」と語った。

講演後、乳がん平癒祈願で知られる九度山町の慈尊院が会場となり、矢方さんと参加者らが乳がん克服の願いを込めてキャンドルに点灯。境内の多宝塔もライトアップされ、がん撲滅啓発運動のシンボルカラーのピンクに彩られた。【松野和生】

キャンドルに点灯する矢方美紀さん（右）と梅村定司医師＝九度山町の慈尊院で

THE YOMIURI SHIMBUN
讀賣新聞
2019年（令和元年）
10月29日火曜日

乳がん闘病「一歩ずつ」

橋本 元SKE矢方さん講座

乳がんを経験したタレントでアイドルグループ「SKE48」の元メンバー、矢方美紀さん(27)らが講師を務める市民公開講座「いのち～inochi～一歩一歩、前へ。」が26日、橋本市保健福祉センターで開かれた。

医療法人南労会・紀和病院（橋本市）の乳がん専門診療科「紀和ブレストセンター」などが企画した。

矢方さんは患者ら約300人を前に自身の闘病について講演。25歳の時に左胸にしこりがあることに気づき、検査を受けて乳がんと判明、手術を受けたという。「以前は検査が怖かったが、今は検査を受けないことの方が怖い」と語った。

また、医師から「今は仕事をしながら治療を受ける人が多い。仕事をしたいのならしてください」と助言されたといい、「仕事に復帰する上で、この言葉が大きな支えになった」と話した。さらに「声優になるという夢に向かって一歩ずつ進みたい」と決意を語った。

梅村定司・同センター長も講義し、「日頃から自分の乳房に関心を持ち、乳房を意識して生活してほしい」と呼びかけた。

夕方には、矢方さんらが世界遺産・慈尊院（九度山町）でキャンドルに点灯。多宝塔を乳がん撲滅のシンボルカラーのピンク色にライトアップした。

自身の乳がんの闘病経験について語る矢方さん（橋本市で）